

「瓦版」



2 0 2 2 . October. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

NO.12

カンボジアの日本 ODA プロジェクト

「援助」というとインフラ整備を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、日本の ODA にはその地域に生きる人々に対する支援の枠組みがあります。それが「草の根・人間の安全保障無償資金協力」です。“人間の安全保障の理念を踏まえ、発展途上国における経済社会開発を目的とし、地域住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するもの”で、NGO や地方公共団体、教育機関、医療機関などの非営利団体に対して行われる援助です。カンボジアでは、1991 年から 2020 年までに 650 件の支援が行われています。

前回に引き続き、どのような支援が行われているのかご紹介いたします。

～地方から都市部へ広がる～

ヒト・モノをつなぎ、生活に欠かすことのできない道路や橋梁だが、カンボジアではその多くが内戦時に破壊された。主要な交通網は日本を含む国際社会の支援により復旧が進んだが、依然修復が必要な道路や橋梁は地方にたくさん残っている。加えて、近年カンボジア国内では大規模な洪水が発生しており、もしもの際の被害増大が危惧されている。

そのような状況下で、プレイベン州およびクラチェ州にある 7 つの橋梁の一刻も早い架け替えをカンボジア政府から求められ、日本政府は無償支援協力事業として 2016 年から調査を開始。2020 年にすべての工事が終了した。

対象となった橋梁は、一日約 160 台の車両が 15 トンを超える荷物を載せて利用する。しかしこれまで利用していた橋梁はどれも洪水と老朽化により、崩落の危険性が



非常に高かった。プレーク・ルッ橋 (写真) の架け替えの前後を見ると、安全性が確保されたこと、そして交通の便がはるかに改善されたことがわかる。

～首都機能改善に挑む～

プノンペンにはメコン川とサップ川の合流点に位置する河川港であるため、栄え発展してきた一方で市街地が平坦である地形も合わさり水害を受けやすい。

施設の老朽化や人口増加をふまえ、日本政府は JICA を通じて 1998 年から 1999 年に「プノンペン市および周辺地域の総合的な治水・排水対策マスタープラン策定」を実施した。そして再度の調査や設計の後、無償資金協力の ODA 事業として「プノンペン洪水防御・排水改善計画」が 2002 年に開始し、昨年で全フェーズが終了した。

20 年近くをかけてプノンペンの洪水防御・排水改善が日本の ODA 事業として行われ、その成果は確実に市民の生活を良くしている。しかし、たとえば排水路や排水管にたくさんのゴミが混じってしまうと最大限の排水能力を発揮できなくなってしまう。整えられたシステムや施設を有効に使い続けるためには、管理を担う行政組織だけでなく市民の協力も必要だ。



施工工事の様子

～学びから未来へ～

無償資金協力の ODA 事業として 1999 年度に創設された人材育成奨学計画（JDS）は、公務員を主な対象として日本の大学院の修士課程・博士課程への留学を受け入れている。各国の開発問題解決の中核人材として今後活躍が期待されている若手行政官等を、日本への留学を通して育成し、また留学で築いた日本との友好関係を相互に拡大・強化させていくことが JDS の主な目的だ。カンボジアは JDS 創設 2 年目から受け入れが始まり、2019 年度までに 444 名が来日している。

1991 年の和平達成後、着実に開発を進めるカンボジアだが、各開発課題を取り扱う政府機関・関係省庁の職員・組織・制度等の能力や体制が不足している状況である。カンボジアの国家戦略開発計画に（NSDP）においても行政組織における人材の能力強化は重要課題として挙げられており、本事業へのカンボジア側からの期待も大きい。

JDS 留学を経てカンボジアに帰国した数多くの人が、まさに今、開発課題解決の中核人物として活躍している。

新スタジアム(MORODOK TECO NATIONAL STADIUM)の完成

2021 年 12 月 18 日にカンボジアの新しいスタジアムであるモロドック・テチャー・ナショナル・スタジアムの譲渡式が行われました。

このスタジアムは 2023 年の東南アジア競技大会、東南アジアパラ競技大会のメインスタジアムとして使用されるため、中国の支援で建設が進められました。スタジアムの収容人数は 6 万人とのことです。譲渡式では、オリンピック・パラリンピックアスリートらがパレードで入場し、華麗なマスゲームを披露しました。



第 26 回アンコールワット国際ハーフマラソン

2022 年 1 月 2 日にはアンコールワット国際ハーフマラソンが開催されました。この大会は障がい者の出場枠があるカンボジア国内で最大のマラソン大会であるため、障がい者にとってこの大会に出場するという事は、より多くの方に障がい者スポーツについて知ってもらうことができたり、スポーツに参加することの価値を見出すことができたり、日ごろのトレーニングの成果を発揮することができたりと、とても大切な機会になっています。

前回の大会は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、ヴァーチャルランとしての開催でしたが、今回はアンコールワットでの開催となりました。1.5 メートルのソーシャルディスタンスの確保、スタート後 200 メートルまでマスク着用等の感染対策がなされていました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限があり全体で 2,200 人ほどのランナーが参加しました。2 年ぶりにアンコールワットで大会が開催され、選手たちが皆楽しそうに走っているのが印象的でした。



みちのく 陸奥あれこれ・・・

仙台エコーライオンズクラブ仙台こだま支部



ライオンズクラブは、世界約 200 カ国 130 万人、日本では 11 万人を超える会員で構成される世界最大の奉仕団体です。「We Serve（われわれは奉仕する）」をモットーに掲げ、世界の国々でさまざまな奉仕活動に取り組んでいます。ライオンズクラブの紋章には、「法(Law)・自由(Liberty)・労働(Labor)・忠誠(Loyalty)・愛(Love)・生命(Live)・ライオン(Lion)」を表す L の頭文字の左右に 2 頭のライオンの頭部が配置されており、過去と未来を見つめて社会奉仕活動があらゆる方向に向かって進むことを意味しております。そのスローガンは、Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety(自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全をはかる)で、その頭文字が LIONS の由来となっております。100 周年を迎えた 2017 年から、ライオンズクラブ国際協会は、「環境対策、食糧支援、視力支援、糖尿病支援、小児がん支援」の 5 つの主力奉仕活動を行っています。

仙台エコーライオンズクラブ仙台こだま支部は、2021 年 6 月に結成された医療福祉分野のスペシャルティクラブです。そのビジョンとして、地区内の大学ボランティアサークルと連携した社会奉仕活動を推進することを掲げています。大学ボランティアサークルと協力して、世界の人々との間に国際理解を育み人道的ニーズを満たす奉仕活動を行うことを目標としております。

結成直後の 2021 年秋に、在仙台カンボジア王国名誉領事館にライオンズクラブ国際協会 332-C 地区が運営する眼鏡リサイクルセンターからの眼鏡の寄贈を申し入れいたしましたところ、田井進名誉領事様からご快諾をいただき、カンボジア王国の国立病院（首都プノンペンの病院を中核として全国に 12 か所）に向けた医療支援物資の寄贈ルートが開けました。



今後、全国各地のライオンズクラブから多くのリサイクル眼鏡を回収し、カンボジア王国における低視力者の低減に少しでもお役に立ちたいと考えております。また、先日はカンボジアで家を建てる奉仕活動を行っている東北大学国際ボランティア団体 AsOne のメンバーとともに田井進名誉領事様と面談する機会をいただきました。支部クラブとしても、学生さんたちの今後のカンボジアにおける社会奉仕活動を積極的にサポートして参りたいと考えております。

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区

眼鏡リサイクルセンター

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区（宮城）では、不要になったメガネを回収再生し、それらを必要とする世界中の皆様へ提供させていただいております。

